

● 画像診断で確認
似た病気に「低髄液圧性頭痛」

このため、頭や首の痛み、視力障害、めまいなど様々な症状を招く。症状は深刻で、いつまでも続くことが多い。

このため、頭や首の痛み、視力障害、めまいなど様々な症状を招く。症状は深刻で、いつまでも続くことが多い。

自分の血で破れ目ふさぐ

事故の後、痛みや不調続く



脳脊髄液減少症とは

事故や転倒の衝撃で硬膜が破れて脳脊髄液が漏れ、大脳・小脳が沈下する。頭や首の痛み、視力障害、めまいなどの症状を引き起す。

◆主な症状

痛み	頭痛、首痛、背中痛、腰痛
感覚の異常	視力低下、ものが2重に見える、聴力低下、耳鳴り、めまい、のどや顔面の違和感
自律神経症状	腹痛、下痢、便秘
高次脳機能障害	集中力・記憶力・思考力の低下、睡眠障害
その他	全身のだるさ

※外見や一般的な検査では異常が見つかることもある。

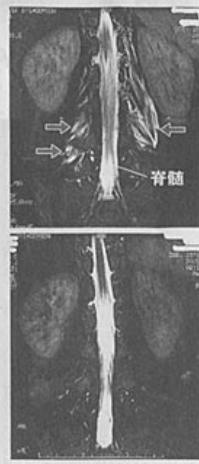


大脳が沈み込んで頭蓋骨の底にぶつかる



治療方法

患者の自己血を腰や背中から硬膜外腔に注入し、凝固した血液で漏れる部分をふさぐ「プラッドパッチ」が有効



写真上：脳脊髄液減少症患者の腰部MRI写真。矢印部が漏れ出した脳液
写真下：プラッドパッチによる治療後。脳液の漏れはなくなり、頭痛などの症状も改善された

デザイン課：三鶴加代子

●患者団体を設立

梅さんは、5月に脳脊髄液減少症の患者団体「サン・クラブ」(大阪市西淀川区)を設立。今月10日から、全国の患者数などを把握する実態調査を始めた。潜在的な患者は全国に約10万人以上とも言われ、連絡のあった患者に、発症原因や症状などを聞く質問用紙を郵送。返信者には患者カードを発行する。印刷費などで1000円が必要。連絡は電話・FAX (06-6474-2114) か電子メール (sun_info@takikuyou.com) で。ホームページ (<http://www.togakikuyou.com/boshu5.html>) もある。

NPO法人「鞭打ち症患者支援協会」(中井宏代表、和歌山市)もホームページ (<http://www.npo-aswp.org/>) に詳しい情報や資料を載せ、相談に乗っている。和歌山事務所は073-461-0317、FAX 073-461-6789。東京仮事務所は03-3429-1426 FAX兼。

28年前に交通事故に遭って以来、大阪市の梅紀代さん(54)は、頭や首・背中の絶え間ない痛みに悩まされてきた。いくつの病院を受診したが、診断がつかなかつた。外見や一般的な検査では異常が見当たらず、心ない医師や周囲から「急病病では」と中傷も受けた。4年前、脳と脊髄を循環する髄液が漏れる「脳脊髄液減少症」と診断され、漏れ出す個所を自分の血でふさぐ「プラッドパッチ」(E.P.)治療を受けてから、症状は劇的に回復した。(秦重信)

● クッショングが消滅

交通事故や転倒などの後、明らかな体の不調が続いている。その原因がはっきりせず、困っている人は多い。

そうした患者の中に、脳脊髄液(髄液)が漏れて、様々な症状を起こしているケースがかなりあること、脳神経外科医の篠永正道さん(現・国際医療福祉大熱海病院)が気づき、「脳脊髄液減少症」という診断名を2000年ごろから提唱した。

脳脊髄液は外側から順に硬膜、くも膜、軟膜に包まれている。このうち、くも膜と軟膜の間に流れている透明な液体が髄液で、脳と脊髄を浮かべ、外部の衝撃から守るクッションの役割を果たしている。約150リットルが循環して一日3~4回入れ替わる。

ところが、何らかの衝撃で硬膜のどこかが切れ、液が漏れるところは深刻で、いつまでも続くことが多い。

そこで診断には、放射性同位元素を含む試験薬を髄液に入れ、漏れている可能性がある。MRI(磁気共鳴画像)で頭部を撮影すると、大脳の位置が下がり、頭頂部の硬膜と脳のすき間が大きくなっていることも多く、見極めの参考になる。

● 自分の血液を注入する

漏れる個所は腰や背中が多い。そこで、まず2週間ほど安静にして、1日2㍑以上の水分をとる。それで効果がなければ、男性は20歳未満の女性なら10~20ミリリットルの自分の血液を、腰や背中から注入する。明舞中央病院(兵庫県明石市)脳神経外科部長、中川紀充さんによると、ます2週間ほど安静にして、1日2㍑以上の水分をとることで、効果がなければ、男性は20歳未満の女性なら10~20ミリリットルの自分の血液を、腰や背中から注入する。

● むち打ち症とは別

03年2月には医師による脳脊液減少症の研究会が発足し、診療指針の作成も進めている。医療界での認知はまだ不十分だが、急速に注目を集め、報道も増えたところ、自分との病気だ、と思いつぶんで受診する人も多い。

号で、日本医科大学脳神経外科部長

の喜多村幸幸さんは、受診した患者220人のうち、髄液漏れは34例(約15%)で、プラッドパッチで著しく改善したのは26例(約13%)だったというデータを紹介した。受診した患者の8割はむち打ち症だった。「むち打ち症と脳脊液漏出は別」という。

● おまけ

■ 脳脊髄液減少症の診療をしている主な医療機関	
国・仙台医療セ (仙台市宮城野区)	022-293-1111
山形県立中央病院 (山形市)	023-685-2626
高木病院 (群馬県桐生市)	0277-53-7711
きし整形外科内科 (茨城県土浦市)	029-825-5200
日本医大 (東京都文京区)	03-3822-2131
山王病院 (東京都港区)	03-3402-3151
山梨大 (山梨県中央市)	055-273-1111
瀬口脳神経外科 (長野県飯田市)	0265-24-6655
国際医療福祉大熱海病院 (静岡県熱海市)	http://atami.uhw.ac.jp/ 紹介状が必要。電話受け付けはしない
名古屋市立大 (名古屋市瑞穂区)	052-858-7466
8月1日午後3時から10~12月分の予約開始。 定員になりしめぎ切り	
奈良県立医大 (橿原市)	0744-22-3051
国・福山医療セ (広島県福山市)	084-922-0001
九州労災病院 (北九州市小倉南区)	093-471-1121
※「国」は国立病院機構、「セ」はセンター	